

言葉の居場所

岐阜市立長良中学校 3年

高橋 可帆

おはよう、さようなら、ごめんね、ありがとう。

意思の疎通、思考の整理、何をするにも私たちにとって言葉の存在は必要不可欠です。日常で私たちが当たり前のようにしていることが言葉により発展してきました。何百万年に及ぶ人類の進化を支えたのは間違いなく言葉です。言葉は人間の証なのです。

その言葉の在り方は今もなお変わっていません。挨拶によるコミュニケーション、感情を鮮明にすること、それを共有すること、頭の中で考えることなど、現代でも言葉は人を結び、思考を広げる役割を担っています。しかし、言葉を当たり前に感じすぎたあまり、私たちは言葉を雑に扱ってしまっしまい、そのせいで今、「言葉の居場所」がなくなりつつあるのです。

例えば「やばい」という言葉。あなたはどんな時に使うでしょう。この「やばい」という言葉は嬉しさや悲しさなど、どんな状況にも適応することができる言葉です。そんな言葉は便利で簡単に誰でも使うことができます。しかし裏を返すと、便利な言葉を多用することは、言葉の美しさや表現の豊かさを失うことにつながりはいないでしょうか。「やばい」という言葉には様々な意味が含まれているからこそ、感じていることや、その熱量の大きさを相手に伝えるという機能が果たし切れません。私も、日常生活で使う言葉を見直すと、一言で多くの意味を含んだ曖昧な言葉を使っています。ピンチに陥った時も、好みの音楽に出会った時も、綺麗な景色を見た時でさえ、「やばい」や「すごい」など自分の言葉で表現し、自分の感じたことを鮮明に伝えようともしません。本当はもつといろいろなことを感じているはずなのに、なぜ自分の言葉で鮮明に伝えることをしないのでしょうか。

それはきっと、現代の風潮に原因があるのかもしれません。誰に向けたわけでもない独り言のような投稿、何を感じ取ったのかわからないスタンプ、判断を委ねてしまう他人の口コミなど、SNS の流行により、周りに合わせる風潮が強まり、感じたことを丁寧に時間をかけて言葉にする機会が減ってしまいました。自分の言葉に自信を無くし、自分の言葉に責任を負えなくなっていました。

「個性」という言葉が溢れるこの社会は、本当に個性を尊重しているのでしょうか。私たちがしているのは個性の尊重ではなく、個性への執着だと思います。奇抜なアーティストに憧れるのも、尖っている服装や曲が流行るのも、珍しいからではなく、自分の個性を出せていることが羨ましくて、自分にはない自己表現の自由さを求めているからだだと思います。「個性の尊重」という風潮自体を大事にして頻繁に語られているからこそ、個性に敏感になって、日常でも怖くて自分を出せなくなってしまうことがあるようにも思います。少なくとも私は、自分のもっている言葉や表現を使おうとすること、言葉にすることに対して抵抗があったり恥ずかしさを感じてしまったりしていました。

言葉にすることと個性を大切にすることは同じです。便利な言葉を多用することは悪いことではありません。簡単に使うことができます。一瞬で共有することができます。ですが、曖昧な言葉で共感し合うよりも、自分の言葉で伝えた時に分かち合えた喜びの方がはるかに大きいはずです。共感することができなくても、相手の見えていた違う景色を知り、自分の世界が広がっていくことにも喜びを感じられます。言葉にすることが、互いの違いに気づき、認め合うことになるのだと思います。

「個性」という言葉が溢れるこの社会。その中で生きる私たちには、思っていること、感じていることをより様々な言葉で形にすることが求められています。それに気づき、私は今日この場で自分の思いを自分の言葉で伝え、自分の居場所を見つけることができました。この話があなたの居場所を作るきっかけになれば嬉しく思います。